

分類・処方薬	併用薬	禁忌または注意	処方薬の変化	対応・処置
グリクラジド	クロフィブラート, クロラムフェニコール, サリチル酸薬 (大量で), プロベネシド, アロプリノール, イソニアジド, フェニルブタゾン, イブプロフェン, フェノフィブラート, メロキシカム, ミコナゾール	注意	作用増強	併用する場合十分に注意し低血糖が認められた場合は, グルコースかショ糖を投与。
	リファンピシン	注意	作用減弱	併用時には血糖を指標に投与量を慎重に増量, ただし併用薬中止時には減量を忘れない。
グリメピリド	フルコナゾール, ミコナゾール	注意	作用増強	併用する場合十分に注意し, 低血糖が認められた場合は, グルコースかショ糖を投与。
	リファンピシン	注意	作用減弱	併用時には血糖を指標に慎重に増量。
ビグアナイド系 メトホルミン	フルコナゾール, ミコナゾール	注意	作用増強	併用する場合十分に注意し, 低血糖が認められた場合は, グルコースかショ糖を投与。
	シメチジン		理論的には血糖効果作用の増加	併用する場合十分に注意し, 低血糖が認められた場合は, グルコースかショ糖を投与。
速効型食後血糖降下薬 ナテグリニド	利尿薬, 経口避妊薬 (ピル)		作用減弱	併用時には血糖を指標に投与量を調節する。
	ミコナゾール, フルコナゾール, ホスフルコナゾール 副腎皮質ホルモン, 卵胞ホルモン, 利尿薬 (チアジド系など)	注意 注意	作用増強 作用減弱	併用時には血糖を指標に投与量を調節する。 併用時には血糖を指標に投与量を調節する。
30 下垂体ホルモン製剤				
成長ホルモン製剤 ソマトロピン	副腎皮質ステロイドホルモン	注意	作用減弱	可能な限り併用は避ける。
31 副腎皮質ホルモン製剤				
副腎皮質ステロイド (プレドニゾン, メチルプレドニゾンなど)	カルバマゼピン, フェニトイン, フェノバルビタール, リファンピシン エリスロマイシン	注意 注意	作用減弱 作用増強の可能性	用量に注意。 併用時には副作用を頻繁に観察。
ステロイドホルモン (デキサメタゾン, プレドニゾンなど)	リファンピシン, バルビツレート系薬物 (フェノバルビタールなど), フェニトイン, カルバマゼピン ケトコナゾール	注意 注意	作用減弱 作用増強の可能性	用量に注意。 用量に注意。
プレドニゾン, プレドニゾン類 プレドニゾン	経口避妊薬 (ピル)		作用増強の可能性	用量に注意。
メチルプレドニゾン類 メチルプレドニゾン	フェニトイン, カルバマゼピン	注意	作用減弱	用量に注意。

副作用

分類・処方薬	併用薬	禁忌または注意	処方薬の変化	対応・処置
デキサメタゾン類 デキサメタゾン	エリスロマイシン, エストロゲン含有経口避妊薬, イトラコナゾール, ジルチアゼム, グレープフルーツジュース イトラコナゾール	注意	作用増強 作用増強	併用やむない場合には臨床観察を頻繁に行い投与量の減量を考える。 併用やむない場合には臨床観察を頻繁に行い投与量の減量を考える。
32. 性ホルモン製剤				
女性ホルモン製剤 卵胞ホルモン製剤 天然卵胞ホルモン製剤 エチニルエストラジオール	リトナビル グレープフルーツジュース	注意	作用減弱 作用増強のおそれ?	避妊効果の減弱による妊娠のおそれがある。 現時点では臨床的な意義不明。
33. その他のホルモン製剤				
甲状腺機能異常治療薬 甲状腺ホルモン製剤 甲状腺ホルモン薬	コレステラミン, 水酸化アルミニウム含有制酸薬, リファンピシン, カルバマゼピン, フェノバルビタール, フェニトイン	注意 注意など	作用減弱 血中濃度が低下	投与間隔をできる限りあけるなど慎重に投与。 T ₄ 測定値や TSH 値を参考にして甲状腺ホルモン薬を慎重に増量する。
34. 骨粗鬆症・骨代謝改善薬				
ビスホスフォネート製剤 アレンドロン酸, リセドロン酸	カルシウムまたはマグネシウム含有薬 (制酸薬など)	注意	処方薬が併用薬と錯体を形成し吸着が低下するため作用減弱	起床後, 最初の飲食前に服用し, かつ服用後少なくとも 30 分は併用薬や飲食物を摂取・服用しないよう指導。
35. 造血と血液凝固関係製剤				
抗血栓剤 血栓溶解剤 ウロキナーゼ プラスミノゲン活性因子 (rt-PA) チクロピジン ヘパリン製剤と抗ヘパリン製剤 ヘパリン 抗トロンビン薬 アルガトロバン	ラマトロバン, アルガトロバン, レビパリン, ダナパロイド, シロスタゾール ニトログリセリン ラマトロバン, メロキシカム 組織プラスミノゲン活性因子 (rt-PA) クマリン系抗凝固薬, ヘパリン, 線維素溶解薬 (ウロキナーゼなど), シロスタゾール, チクロピジン, イコサペント酸エチル	注意 注意 注意 注意	作用増強 効果減少の可能性 効果増強の可能性 作用増強 作用増強	併用する臨床状況を想定するのは困難であるが, 併用時にはきわめて慎重に少量から開始する。 併用時には処方薬の効果持続時間が短縮する可能性を考えて投与計画を立てる。 併用時には処方薬の効果を慎重に観察する。 併用時には aPTT (活性化部分トロンボプラスチン時間) のモニターを頻回に行う。 併用やむない場合には副作用のモニターを頻回に。

分類・処方薬	併用薬	禁忌または注意	処方薬の変化	対応・処置
<p>経口抗凝固剤（クマリン系抗凝固剤） ワルファリン</p>	<p>フェニルブタゾン、スルフィンピラゾン、ブコローム、ベンズプロロン、フルコナゾール、サルファ剤（スルファメトキサゾール-トリメトプリムなど）、シメチジン、ジスルフィラム、メトロニダゾール、ケトコナゾール、ミコナゾール、フルボキサミン、フェノフィブラート、デラビルジン、フルバスタチン、ザフィルカスト、アミオダロン、キニジンなど</p> <p>バルビツレート系薬物（フェノバルビタールなど）、リファンピシン、カルバマゼピン、クロルジアゼボキシド、グルテチミド、カルバマゼピン、ナフシリン、グリセオフルビン、テルビナフィン、ネビラピン、リバビリン</p> <p>コレステラミン、スクラルファート</p> <p>抗血小板薬（アスピリン、チクロピジン、シロスタゾール）、トロンボキササン</p> <p>合成阻害薬（オザグレル）、プロスタグランジン薬（リマプロスト、アルプロスタジル）、ラマトロバン、レビパリン</p> <p>セファロスポリン系抗生物質（セファゾリン、セフォテタン、セファマンドール、セフォペラゾン、ラタモキシセフ、セフロキシム、セフメノキシム、セフチゾキシム、セフォセリスなど）</p> <p>ビカルタミド、ホリナー</p> <p>ビタミンK含有食品（納豆、ブロッコリー）の過摂取</p>	<p>注意</p> <p>注意</p> <p>注意</p> <p>注意</p> <p>注意</p> <p>注意</p> <p>注意</p> <p>注意</p> <p>注意</p>	<p>作用増強</p> <p>作用減弱</p> <p>コレステラミン：作用減弱 スクラルファート：作用増強</p> <p>作用増強</p> <p>ビタミンK欠乏症を生じ、ワルファリンの作用を増強する</p> <p>作用増強</p> <p>作用減弱</p> <p>作用増強</p>	<p>凝固能の変動に十分注意しながら投与。</p> <p>凝固能の変動に十分注意しながら投与。</p> <p>凝固能の変動に十分注意しながら投与。</p> <p>凝固能の変動に十分注意しながら投与。</p> <p>ワルファリン服用患者では腸内細菌叢を変化させるような抗菌薬の投与は慎重に。</p> <p>凝固能の変動に十分注意しながら投与。 ワルファリン服用患者では左記食品は避けるよう指導すべき。</p> <p>併用時には慎重に。</p>
<p>血液凝固阻止剤 ダナパロイド</p>	<p>ウロキナーゼ、プラスミノゲン活性薬（t-PA、ヘパリン、アスピリン、ジピリダモール、チカルシリン、クロキサシリン</p>	<p>注意</p>	<p>作用増強</p>	<p>併用時には慎重に。</p>

副作用

分類・処方薬	併用薬	禁忌または注意	処方薬の変化	対応・処置
36. 中毒治療薬				
重金属その他の中毒治療薬 メスナ	イホスファミド	注意	脳症の発現リスク増加の可能性	観察を十分に行う。
37. 抗菌薬				
βラクタム抗生物質 ペニシリン系 アンピシリン	アロプリノール		皮疹の頻度増加?	併用を避ける必要はないが、皮疹の発現には注意。
セフェム系 第3世代 セファロスポリン系抗生物質	フロセミド, ポリミキシンB	注意など	他のセフェム系で、腎障害増強の報告	両者の併用時には腎機能観察を頻回に。
アミノ配糖体系 アミノグリコシド系抗生物質	筋弛緩薬	注意	呼吸抑制（神経筋遮断作用増強）	呼吸抑制が現れた場合、必要に応じてChE阻害薬、Ca製剤の投与などの処置。
	ループ利尿薬、セファロスポリン系抗生物質、アムホテリシンB、シクロスポリン、タクロリムス、ペニシリン系抗生物質	注意	腎障害のリスク増加	両者の併用時には腎機能観察を頻回に。
			分解による効果減弱の可能性	両薬を同一点滴瓶内に混合しない。時間をずらすか別のルートで投与。
サルファ剤 スルファメトキサゾール-トリメトプリム その他の殺菌性抗生物質 バンコマイシン	シクロスポリン	注意	腎機能障害増強	特に腎移植後の患者では注意。
	デキサメタゾン		MRSA 髄膜炎などに対する効果が減弱する可能性	中枢以外の全身感染症では影響なし。
テイコプラニン	ループ利尿薬（フロセミド、エタクリン酸など）、アミノグリコシドまたはペプチド系抗生物質、アムホテリシンB、シクロスポリン、シスプラチン	注意	腎障害、聴覚障害を増強	併用回避が望ましいが、やむをえない場合は慎重に。
テトラサイクリン系 テトラサイクリン系抗生物質（ドキシサイクリンなど）	制酸薬（アルミニウム、カルシウム、マグネシウムを含むもの）、ビスマスサブサリチレート、オメプラゾール	注意	作用減弱	併用やむない場合には下記の注意を守る。制酸薬によりテトラサイクリンの吸収が阻害されるので、投与間隔を1-2時間ずらすとよい。細菌性下痢の治療では同時併用は禁忌。投与間隔を2時間以上あける（テトラサイクリンを先に投与）。
クロラムフェニコール系 クロラムフェニコール	フェノバルビタール	注意	作用減弱	フェノバルビタールをベンゾジアゼピンなどに変更する。
マクロライド系 14員環系 クラリスロマイシン	オメプラゾール、リトナビル、インジナビル、アタザナビル	注意	CYP 3A 阻害によるクラリスロマイシン消失能低下により作用増強	

分類・処方薬	併用薬	禁忌または注意	処方薬の変化	対応・処置
15 員環系 アジスロマイシン	マグネシウム, アルミニウム含有制酸薬	注意	吸収阻害による Cmax 低下	治療目的が消化性潰瘍あるいは胸焼けなどなら H ₂ 受容体遮断薬や PPI に変更する。
38. 化学療法剤				
キノロン薬(ピリドンカルボン酸) ニューキノロン薬 キノロン系抗菌薬 (エノキサシン, オフロキサシン, シプロフロキサシン, ノルフロキサシン, ロメフロキサシン, トスフロキサシン, ガチフロキサシンなど)	アルミニウム, マグネシウム含有制酸薬およびスクラルファート	注意	作用減弱	キノロン系服用後 2 時間以上あけて制酸薬などを服用する。
	フェンブフェン, ケトプロフェン, フルルピプロフェン	禁忌	けいれんの発現	特に高齢者では併用を避ける。
	カルシウム含有制酸薬	注意	作用減弱	キノロン系服用後 3 時間以上あけて制酸薬などを服用する。
	鉄剤	注意	作用減弱	キノロン系服用後 3 時間以上あけて制酸薬などを服用する。
シプロフロキサシン	プロベネド		作用と副作用増強の可能性	高尿酸血症治療が併用薬の目的であればアロプリノールに変更するのが無難。
	リファンピシン		抗菌効果減弱の可能性	併用時には効果に応じて処方薬の増量を考慮する。
	ミルクまたはヨーグルト		抗菌効果減弱の可能性	処方薬服用中は乳製品の摂取を禁ずる。
抗結核薬 リファンピシン	HIV 感染症治療薬 (インジナビル, サキナビル, ネルフィナビル, アンプレナビル, 硫酸アタザナビル, デラビルジン) またはプラジカンテルを投与中	禁忌	処方薬が併用薬の効果を減弱する	可能な限り併用は避ける。
39. 抗真菌薬				
トリアゾール系 イトラコナゾール	フェニトイン, リファンピシン	注意	併用薬により処方薬の代謝が促進され作用が減弱する	効果が不十分なら増量も考える。
	シメチジンなどの H ₂ 受容体拮抗薬, オメプラゾールなどのプロトンポンプ阻害薬, ジダノシン	注意	胃内 pH 上昇により処方薬の吸収が低下し作用が減弱する	両剤の投与間隔をできる限りあける。
	ピモジド, キニジン, トリアゾラム, シンバスタチン, アゼルニジピン, エルゴタミン, ジヒドロエルゴタミン, パルデナフィール, シサプリド投与中	禁忌	処方薬が併用薬の代謝阻害により効果と副作用を増強する可能性	処方薬服用中は CYP 3A4 により代謝される薬物はできるだけ併用しないのが無難。
アリルアミン系 テルビナフィン	シメチジン	注意	作用増強	用量注意。

分類・処方薬	併用薬	禁忌または注意	処方薬の変化	対応・処置
40. 抗ウイルス薬				
ヘルペスウイルス感染症治療薬 アシクロビル	プロベネシド	注意	腎排泄抑制（半減期延長, AUC 増加）	高尿酸血症治療が併用薬の目的であればアロプリノールに変更するのが無難。 併用やむない場合には副作用観察を頻回に。 併用は禁忌である。
	ビダラビン	注意	AUC 増加	
サイトメガロウイルス感染症治療薬 ガンシクロビル	プロベネシド	注意	処方薬の腎排泄低下による副作用増強	ガンシクロビルあるいはプロベネシドの減量, 中止などの処置。 ガンシクロビルあるいはジドブジンの減量, 中止などの処置。 副作用が生じた際には, ガンシクロビルあるいはモフェチルの減量, 中止などの処置。 併用回避。
	ジドブジン	注意	作用増強, 副作用増強	
	モフェチル	注意	副作用が現れるおそれ	
	ホスカルネット	注意	腎障害を増強	
HIV 感染症治療薬 核酸系逆転写酵素阻害薬 (nRTIs) ジドブジン	アミノグリコシド系抗生物質, アムホテリシン B, シクロスポリン, ペンタミジン	注意 禁忌	副作用（腎障害, 低 Ca 血症）増強	できるだけ併用の回避。
	ペンタミジン, ピリメタミン, スルファメトキサゾール-トリメトプリム, フルシトシン, ガンシクロビル, インターフェロン, ビンクリスチン, ビンプラスチン, ドキソルピシン	注意	副作用増強	できるだけ併用の回避。
	メトトレキサート, シクロホスファミド, ビンクリスチン, ガンシクロビル, スルファジアジン, インターフェロン製剤, スルファメトキサゾール-トリメトプリム	注意	毒性作用増強	できるだけ併用の回避。
	プロベネシド	注意	作用増強	投与間隔をあける。 併用やむない場合には処方薬の副作用を頻回に観察。
	フルコナゾール, ホスフルコナゾール	注意	処方薬濃度 80% 増加	
	ジダノシン	テノホビル, ガンシクロビル	注意	副作用増強の可能性
ラミブジン	リバビリン	注意	副作用増強の可能性	できるだけ併用の回避。 併用やむない場合以外は回避。
	スルファメトキサゾール-トリメトプリム	注意	AUC 増加, 全身クリアランス, 腎クリアランス減少	
アバカビル	ザルシタピン	注意	作用減弱	併用は避けることが望ましい。 飲酒は慎むのが無難である。
	エタノール飲用	注意	濃度増加するが効果に対する影響は不明	

副作用

分類・処方薬	併用薬	禁忌または注意	処方薬の変化	対応・処置
テノホビル	アシクロビル, バラシクロビル, ガンシクロビル	注意	作用増強	併用やむない場合以外は回避。
エファビレンツ	リファンピシン	注意	作用減弱	併用する場合, エファビレンツの投与量を800mg/日に増加。リファンピシンの用量調節は推奨されない。
デラビルジン	カルバマゼピン, フェニトイン, フェノバルビタール, アンプレナビル	注意	併用薬によるCYP誘導により処方薬の効果低下の可能性	併用やむない場合以外は回避。
プロテアーゼインヒビター (PIs)	アルミニウムまたはマグネシウム含有制酸薬, プロトンポンプ阻害薬	注意	処方薬の吸収低下による抗ウイルス効果の減弱の可能性	1時間以上投与間隔を開ける。
アタザナビル	クラリスロマイシン	注意	併用薬によるCYP3A阻害により作用が増強する	クラリスロマイシンを半量に減量して投与を考慮。
	エファビレンツ	注意	併用薬のCYP3A誘導作用により処方薬の代謝を促進し作用が減弱する	CYP3A阻害薬のリトナビルを併用しない際は, エファビレンツの使用は推奨されない。
	テノホビル	注意	併用薬のCYP3A誘導作用により処方薬の代謝を促進し作用が減弱する	CYP3A阻害薬のリトナビルを併用しない際は, テノホビルの使用は推奨されない。
サキナビル	カルバマゼピン, フェニトイン, フェノバルビタール, リファンピシン, デキサメタゾン	リファンピシン: 禁忌 他: 注意	作用減弱	リファンピシンの投与を受けた患者にサキナビルを投与する場合には, 少なくとも2週間の間隔をおくことが望ましい。
	ネルフィナビル, デラビルジン, リトナビル, グレープフルーツジュース	投与禁忌など	処方薬が併用薬の代謝を阻害し副作用を増強する	できるだけ併用の回避。
リトナビル	リファンピシン, フェニトイン, カルバマゼピン, フェノバルビタール, エファビレンツ	注意	リファンピシンのAUCが減少	できるだけ併用の回避。
インジナビル	リファンピシン, 西洋オトギリソウ (セントジョーンズ・ワート)	注意	処方薬の代謝促進により抗ウイルス効果低下のおそれ	できるだけ併用の回避。
	ジダノシン	注意	処方薬の濃度低下	やむなく併用の場合には投与時間を開ける。
	テルフェナジン, アステミゾール, シサプリド, トリアゾラム, ミダゾラム, アルプラゾラム, イトラコナゾール, ネルフィナビル, リトナビル, ケトコナゾール, デラビルジン	禁忌	併用薬の毒性増強	できるだけ併用の回避。
ネルフィナビル	インジナビル, サキナビル, リトナビル, デラビルジン, アジスロマイシン	注意	作用増強 (血中濃度上昇)	できるだけ併用の回避。
アンプレナビル	リファンピシン, フェノバルビタール, フェニトイン, カルバマゼピン, エファビレンツ	リファンピシン: 禁忌, 他: 注意	作用減弱	リファンピシンの投与を受けた患者にアンプレナビルを投与する場合には, 少なくとも2週間の間隔をおくことが望ましい。

副作用

分類・処方薬	併用薬	禁忌または注意	処方薬の変化	対応・処置
	インジナビル, サキナビル, ネルフィナビル, イトラコナゾール, ケトコナゾール, デラビルジン	注意	作用増強	併用やむない場合には副作用の頻回なモニターを行う。
41. 寄生虫・原虫用薬				
トリコモナス治療薬 メトロニダゾール	飲酒, リトナビル	注意	ジスルフィラム様反応(頭痛, 頻脈, 発汗, 悪心, 嘔吐など)の出現	処方薬の投与は避ける。飲酒は禁止。
吸虫駆除薬 プラジカンテル	フェニトイン, カルバマゼピン	注意	処方薬の薬理効果の低下の可能性	併用やむない状況はてんかん患者などと推測されるため, 処方薬の効果を観察しつつ, 必要な場合には慎重な増量。
	シメチジン	注意	処方薬の効果と毒性増強の可能性	慎重な臨床効果の観察と, 必要なら処方薬の減量。
42. 抗癌剤				
アルキル化剤 シクロホスファミド	アロプリノール	注意	処方薬の効果と毒性増強の可能性	慎重な臨床効果の観察と, 必要なら処方薬の減量。
イホスファミド	メスナ	注意	併用例で脳症発症の報告, 因果関係不明	併用する際には慎重な臨床観察が必要。
	シスプラチン	注意	骨髄抑制作用の増強の可能性	併用する際には慎重な臨床観察が必要。
ブスルファン	カルバマゼピン, フェニトイン		処方薬の薬理効果の低下の可能性	処方薬の臨床効果の慎重な観察。本来処方薬の吸収には個人差が大きいので一律の増量は疑問である。
	イトラコナゾール	注意	骨髄抑制作用の増強の可能性	併用する際には慎重な臨床観察が必要。本来処方薬の吸収には個人差が大きいので一律の減量は疑問である。
代謝拮抗剤 6-メルカプトプリン	メトトレキサート		骨髄抑制作用の増強の可能性	処方薬濃度の変化は少ないので臨床的意義は不明。慎重な臨床観察は必要。
	アロプリノール	注意	骨髄抑制作用の増強の可能性	併用時には処方薬投与量を1/3-1/5に減少する必要がある。
	スルファサラジン, 5-アミノサリチル酸	注意	骨髄抑制作用の増強の可能性	慎重な臨床効果の観察と必要なら処方薬を減量する。
フルオロウラシル (5-FU)	ロイコボリン		骨髄抑制作用の増強の可能性	臨床的にはしばしば併用される。慎重な臨床観察。
	インターフェロンアルファ		骨髄抑制作用の増強の可能性	臨床的に併用やむない場合には処方薬の臨床効果を慎重に観察。
アルカロイド系 ビンクリスチン	カルバマゼピン, フェニトイン		処方薬の薬理効果の低下の可能性	臨床的意義は不明。
	ニフェジピン, イトラコナゾール, シクロスポリン	注意	骨髄抑制作用の増強の可能性	臨床症状の慎重な観察と必要に応じて処方薬を減量あるいは休薬する。

副作用

分類・処方薬	併用薬	禁忌または注意	処方薬の変化	対応・処置
ドセタキセル	エリスロマイシン, イトラコナゾール	注意	骨髄抑制作用の増強の可能性	臨床症状の慎重な観察と必要に応じて処方薬を減量あるいは休薬する。
	シクロスポリン	注意	骨髄抑制作用の増強の可能性	処方薬使用中の患者には併用薬の投与は控えるべき。
ビノレルビン	イトラコナゾール, マクロライド系抗生物質, テルフェナジン, カルシウム拮抗薬, ジアゼパム, トリアゾラム, ミダゾラム	注意	骨髄抑制作用の増強の可能性	臨床症状の慎重な観察と必要に応じて処方薬を減量あるいは休薬する。
抗生物質抗癌剤 ドキシソルビシン	ベラパミル	注意	骨髄抑制作用の増強の可能性	臨床症状の慎重な観察と必要に応じて処方薬を減量あるいは休薬する。
	シクロスポリン, パクリタキセル		骨髄抑制作用の増強の可能性	臨床症状の慎重な観察と必要に応じて処方薬を減量あるいは休薬する。
エビルピシン	パクリタキセル		骨髄抑制作用の増強の可能性	臨床的に併用の高い薬物であるので, 併用時には慎重な臨床観察が必要。
プレオマイシン	G-CSF 製剤 (ナルトグラステムなど) シスプラチン		間質性肺炎リスク増加の可能性 処方薬の効果および毒性の増強の可能性	理論上は可能だが, 臨床意義は不明。 臨床症状の慎重な観察と必要に応じて処方薬を減量する。
トポイソメラーゼ阻害薬 エトポシド	フェニトイン, フェノバルビタール シクロスポリン, キニジン		処方薬の薬理効果の低下の可能性 処方薬の効果および毒性の増強の可能性	臨床的な意義は不明。 併用薬を高用量で静注使用した場合にみられる。 臨床症状を観察し, 必要なら処方薬の投与量を50%減量する。
	イリノテカン	注意	処方薬の効果および毒性の増強の可能性	併用薬はCYP3A4阻害作用のない同効薬に変更する。アムホテリシンB, βラクタム薬など。
白金製剤 シスプラチン	アタザナビル		処方薬の効果および毒性の増強の可能性	アタザナビルの併用は推奨されない。併用やむない場合は処方薬の投与薬の副作用を注意深く観察し, 必要なら減量する。
	アミノグリコシド系抗生物質(ゲンタマイシン, トブラマイシン, アルベカシンなど)	注意	処方薬の効果および毒性の増強の可能性	グラム陰性菌治療ならアズトレオナムなど腎毒性の少ない薬物に変更。併用やむない場合には腎機能のモニターを慎重に行う。
カルボプラチン	アミノグリコシド系抗生物質(ゲンタマイシン, トブラマイシン, アルベカシンなど)	注意	処方薬の効果および毒性の増強の可能性	グラム陰性菌治療ならアズトレオナムなど腎毒性の少ない薬物に変更。併用やむない場合には腎機能のモニターを慎重に行う。

副作用

分類・処方薬	併用薬	禁忌または注意	処方薬の変化	対応・処置
分子標的治療薬 イマチニブ ゲフィチニブ その他の抗癌剤 プロカルバジン	リファンピシン, カルバマゼピン, デキサメタゾン	注意	処方薬の薬理効果の低下の可能性	慎重な臨床効果の観察を行い, 必要なら処方薬の投与量を50%程度増量する必要がある。ただし, 併用薬中止時には投与量を元に戻す必要がある。
	アゾール系抗真菌薬 (イトラコナゾールなど), マクロライド系抗生物質 (クラリスロマイシンなど)	注意	処方薬の効果および毒性の増強の可能性	慎重な臨床効果観察と必要なら処方薬の減量が必要。
	プロトンポンプ阻害薬 (オメプラゾールなど), ヒスタミンH ₂ 受容体遮断薬 (ファモチジンなど)	注意	処方薬の薬理効果の低下の可能性	制酸効果のある薬物はすべて相互作用を生じるので消化性潰瘍治療では代替薬はスルラルファートなどの粘膜保護剤のみ。慎重な臨床観察と必要なら処方薬増量。
	リファンピシン, フェニトイン, カルバマゼピン, フェノバルビタール, セントジョーンズ・ワート含有食品・ある種の漢方薬	注意	処方薬の薬理効果の低下の可能性	併用やむない場合には, 慎重な臨床観察のもとに処方薬の増量を考える。
	イトラコナゾール, リトナビル, インジナビル, ベラパミル, マクロライド系抗生物質	注意	処方薬の効果および毒性の増強の可能性	慎重な臨床効果観察と必要なら処方薬の減量が必要。
	フェノバルビタール, フェニトイン, カルバマゼピン		処方薬の効果および毒性の増強の可能性	慎重な臨床効果観察と必要なら処方薬の減量が必要。
43. 免疫抑制剤				
シクロスポリン	フェノバルビタール, カルバマゼピン, フェニトイン, リファンピシン, セントジョーンズ・ワート, ベラパミル	注意	処方薬の薬理効果の低下の可能性	慎重な臨床観察と処方薬のTDMを行い, 必要なら処方薬を増量する。ただし併用薬を中止する場合には減量を行わないと過量投与となる可能性がある。
	ピタバスタチン	禁忌	併用薬の血中濃度が通常よりも高くなり効果が増強する可能性	処方薬による高脂血症治療にスタチン薬を使用する場合には水溶性スタチン(プラバスタチン)に変更。
	ジルチアゼム, ベラパミル, アムロジピン, グレープフルーツジュース, マクロライド系抗生物質, フルボキサミン カリウム保持性利尿薬 (スピロノラクトン, トリアムテレン, アミロリド), アンジオテンシン変換酵素阻害薬	注意	処方薬の効果および毒性の増強の可能性 処方薬の腎障害による高カリウム血症のリスク増加	慎重な臨床効果観察と処方薬のTDMにより必要なら処方薬の減量が必要。 利尿薬はチアジド系 (ただし高尿酸血症に注意) あるいはループ利尿薬に変更。

副作用

分類・処方薬	併用薬	禁忌または注意	処方薬の変化	対応・処置
	アミノグリコシド系抗生物質, アムホテリシン B, 非ステロイド性抗炎症薬, スルファメトキサゾール-トリメトプリム, ガンシクロビル, アンジオテンシン変換酵素阻害薬	注意	処方薬の腎毒性作用増加	併用やむない場合には頻回の腎機能モニタリング。
	ダナゾール, エストラジオール, エリスロマイシン, ジョサマイシン, オレアンドマイシン, クラリスロマイシンなどのマクロライド系抗生物質, イトラコナゾール, フルコナゾール, シメチジン, メトロニダゾール, メルファラン, メチルテストステロン, グレープフルーツジュース, シプロフロキサシン, ノルフロキサシン, タクロリムス, ビタミン E, インターフェロン製剤	タクロリムスは禁忌, 他は注意	処方薬の腎毒性作用増加	併用やむない場合には処方薬の TDM により投与量を調節する。慎重な臨床観察と腎機能モニタリングが必要。
アザチオプリン	アロプリノール	注意	処方薬の毒性(骨髄抑制など)増強のおそれ	併用時には処方薬の薬用量を 1/3-1/5 に減量するのがよいとされている。
タクロリムス	スルファサラジン, メサラジン	注意	処方薬の毒性(骨髄抑制など)増強のおそれ	慎重な臨床観察と必要なら処方薬の減量。
	エリスロマイシン, クラリスロマイシン, ベラパミル, ジルチアゼム, ニルバジピン, ニフェジピン, デキサメタゾン, エチニルエストラジオール, イトラコナゾール, グレープフルーツジュース, プロモクリプチン, ダナゾール, フルコナゾール, リトナビル	注意	処方薬の効果および毒性の増強の可能性	慎重な臨床観察と処方薬の TDM による投与量補正が重要。
ミコフェノール酸モフェチル	リファンピシン, フェニトイン, セントジョーンズ・ワート	注意	処方薬の薬理効果の低下の可能性	慎重な臨床観察と処方薬の TDM による投与量補正が重要。
	アシクロビル, バラシクロビル, ガンシクロビル鉄剤, アルミニウムあるいはマグネシウムを含む制酸薬, コレスチラミンなどの陰イオン交換レジ	注意	処方薬の毒性(骨髄抑制など)増強のおそれ	慎重な臨床観察による処方薬の投与量調節。
	タクロリムス	注意	処方薬の薬理効果の低下の可能性	併用薬を多価陽イオンを含まない酸分泌抑制薬(H ₂ 受容体遮断薬あるいは PPI)に変更する。高脂血症治療はスタチン薬などに変更。
	麻疹・風疹ワクチン, ポリオワクチン	禁忌	処方薬の効果および毒性の増強の可能性	報告により差異があり臨床意義は明らかでない。慎重な観察が必要。
			処方薬の作用は不変	併用薬の免疫獲得作用が不十分となるだけでなく、時に弱毒ワクチンウイルス発症も類薬で報告がある。

分類・処方薬	併用薬	禁忌または注意	処方薬の変化	対応・処置
44. インターフェロン・インターロイキン製剤				
インターフェロン製剤 インターフェロン（アルファまたはベータ）	小柴胡湯 カプトプリル，エナラプリル	禁忌	処方薬の毒性増強のおそれ（間質性肺炎）？ 処方薬の顆粒球減少作用の増強？	小柴胡湯の併用は避ける。他の成分的に類似のものも避けるのが無難。併用薬を他の降圧薬などに変更するか，慎重な血液モニタリングが推奨される。
45. 眼科用薬				
緑内障治療薬 チモロール	キニジン，パロキセチン	注意	処方薬の効果および毒性の増強の可能性	CYP 2D6 阻害作用のない抗不整脈薬（クラス I ではジソピラミド，ピルジカイニドなど）に変更。パロキセチンは古典的な三環系抗うつ薬に変更が勧められる。
点眼用チモロール	キニジン，ベラパミル	注意	処方薬の効果および毒性の増強の可能性	CYP 2D6 阻害作用のない抗不整脈薬（クラス I ではジソピラミド，ピルジカイニドなど）に変更。
46. 口腔用薬				
口腔内乾燥症状改善薬 セビメリン	コリン作動薬（ベタネコールなど），抗コリンエステラーゼ薬（ネオスチグミン，アンベノニウムなど），アセチルコリン放出作用薬（シサプリド，モサプリド） アトロピン，スコポラミン，フェノチアジン系薬物，三環系抗うつ薬	注意 注意	処方薬のコリン作動効果増強 処方薬のコリン作動効果低下	処方薬の臨床適応によるが，シェーグレン症候群などで処方薬服用が必須であれば併用薬の投与を避けるか，ごく少量から開始するのが無難。 処方薬の適応から考えてアトロピンなどの抗コリン薬の処方が必要になる状況は少ないと思われる。抗精神薬では非定型的薬物（オランザピンなど），抗うつ薬では SSRI に変更が勧められる。
	CYP 2D6 阻害薬（キニジンなど），CYP 3A4 阻害薬（エリスロマイシン，イトラコナゾール，シメチジンなど） CYP 3A4 誘導薬（リファンピシンなど）	注意 注意	処方薬の効果と毒性増強 処方薬の作用減弱の可能性	処方薬の減量か，CYP 阻害作用のない併用薬に変更。 臨床的な意義は不明だが，必要に応じて処方薬を増量する。ただし，併用薬中止時に適切な減量が必要である。
47. 麻薬				
アヘンアルカロイド系 モルヒネ	リファンピシン		処方薬の作用減弱の可能性	鎮痛効果を観察しつつ，必要なら増量する。ただし，併用薬中止時に適切な減量が必要である。

分類・処方薬	併用薬	禁忌または注意	処方薬の変化	対応・処置
コデイン	ジクロフェナク		処方薬の作用増強	慢性疼痛に通常でも使用される組み合わせ。コデイン作用が増強される可能性があるので好ましい相互作用といえる。
非アルカロイド系 ペチジン	フェノバルビタール	注意	処方薬の中枢抑制作用の増強	併用薬を高用量で使用する場合には注意が必要。必要なら処方薬の減量。併用薬の投与は避ける。抗うつ薬としてはSSRIなどに変更。結核治療などのイソニアジドの投与が必要な場合にはペチジンをオピオイドなどに変更。
	モノアミン酸化酵素(MAO)阻害薬(サフラジンなど)とMAO阻害作用のある薬物(イソニアジドなど)	禁忌または注意	処方薬による中枢興奮, 錯乱, 呼吸循環不全作用出現の可能性	飲酒は禁止。HIV治療でリトナビル服用が必要な場合はペチジン減量。ミダゾラムは麻酔導入時に併用する場合があるが、血圧変化に注意。フェノチアジン系薬物の併用時には処方薬の投与量を慎重に減量する。処方薬の投与量を効果を観察しつつ、必要な場合には慎重に減量する。
	飲酒, リトナビル		処方薬の中枢抑制作用の増強	
フェンタニル	ミダゾラム, フェノチアジン系薬物(ペルフエナジンなど)	注意	処方薬の中枢抑制作用の増強	
	リトナビル	注意	処方薬の中枢抑制作用の増強	
48. 麻酔薬				
全身麻酔薬				
麻酔薬(全身麻酔薬)(シクロプロパン, エンフルラン, ハロタン)	カテコールアミン(アドレナリンなど)	注意	不整脈発生	処方薬投与が術中などに必要な場合には慎重な心電図観察と投与量の減量が必要。
イソフルラン	ジスルフィラム		処方薬の効果増強	術前に十分時間をあけて併用薬を中止しておく。
局所麻酔薬				
リドカイン	メキシレチン		処方薬の効果および毒性の増強の可能性	処方薬と併用薬の併用は薬理的な観点から必要性が少ない。
	シメチジン, プロプラノロール, アミオダロン, プロパフェノン		処方薬の効果および毒性の増強の可能性	リドカインのTDMを行い投与量調節を行う。
49. 生活改善薬				
勃起不全治療薬(薬価基準適用外) シルデナフィル(バイアグラ)	硝酸薬(ニトログリセリン, イソソルビドなど)	禁忌	処方薬の効果および毒性の増強	ED治療をシルデナフィルで行っている患者では、狭心症治療にはβ受容体遮断薬かCaチャネル遮断薬を用いるべき。CYP3A4阻害作用のない類薬に変更する(II.参照)。
	アンブレナビル, リトナビル, ケトコナゾール, デラビルジン, サキナビル, その他のCYP3A阻害薬(クラリスロマイシンなど)	注意	処方薬の効果および毒性の増強	

分類・処方薬	併用薬	禁忌または注意	処方薬の変化	対応・処置
経口避妊薬(薬価基準適用外) 経口避妊薬(ピル)	カルバマゼピン, フェノバルビタール, フェニトイン, リファンピシン, プリミドン, エトスクシמיד, グリセオフルビン, セントジョーンズ・ワートアトルバスタチン	注意	処方薬の効果減少による避妊失敗 処方薬の効果はおそらく不変	CYP 3 A 誘導作用のない類薬に変更。 処方薬の濃度変化は少ないので臨床的意義は不明だが, 他の相互作用報告のないスタチン(プラバスタチンなど)への変更が無難である。
50. その他の治療薬				
ダブソン	リファンピシン, カルバマゼピン, フェニトイン アムホテリシン B, アミノグリコシド系抗生物質, スルファメトキサゾール-トリメトプリム リトナビル, シメチジン	注意	処方薬の抗菌作用低下の可能性 処方薬の効果は不変 処方薬の効果と毒性増加の可能性	リファンピシンの併用時にはダブソン投与量を必要に応じて増量。抗てんかん薬であれば臨床的に可能であればバルプロ酸などに変更。 ダブソンの腎障害はネフローゼ症候群や乳頭壊死など長期の障害が主体であるので, 短期的には併用はさほど問題にならないと考える。代替抗真菌薬としてはイトラコナゾールなどがあるが, この薬物はダブソン代謝を阻害するので注意が必要である。アミノグリコシドは可能ならアズトレオナムなどに変更。 シメチジンは PPI へ変更が可能。
アルツハイマー型認知症治療薬 ドネペジル	カルバマゼピン, フェノバルビタール, フェニトイン, リファンピシン, デキサメタゾン キニジン, ケトコナゾール	注意 注意	処方薬の効果減少の可能性 処方薬の効果と毒性増加の可能性	慎重な臨床観察による処方薬の増量。ただし, 併用薬中止時には減量を忘れないようにする。 臨床的意義は不明。
ミオクローヌス治療薬 ピラセタム	T ₃ (リオチロニン), T ₄ (レボチロキシン)	注意	中枢症状の出現	併用薬投与が必要な場合には他に代替薬がないので, 処方薬を中止するべき。

副作用

V. 食品、栄養因子などと薬物相互作用

食品もしくは栄養因子	薬物の代謝動態への影響
グレープフルーツジュース (GFJ)	GFJの含有成分が主として消化管上皮に発現しているGYP3A4を阻害するため、ジヒドロピリジン系Ca拮抗薬(フェロジピン, ニソルジピン, ニカルジピン, ニトレンジピン, アゼルジニピンなど)の血中濃度-時間下面積(area under the curve: AUC)が300-600%まで増加し、降圧効果の増強もしくは低血圧に伴う副作用の可能性が生じる。ニソルジピンに対するGFJの代謝抑制効果は3日間持続する。原因物質として、最近ではフラノクマリン系物質(例えばベルガモチンなど)などが想定されている。トマトやオレンジジュースは相互作用を生ずることはない。薬物相互作用を避けるためには、いずれにしろ最少必要薬物を水と服用することである。ミダゾラム、アルプラゾラムやトリアゾラムのAUCが約60%まで増加。抗てんかん薬カルバマゼピン、抗エイズ薬サキナビルおよびネルフィナビルなどやシクロスポリン、エチニルエストラジオール、アミオグロン、メチルプレドニゾロン、デキサメタゾンなどのCYP3A4により代謝される薬物(II.参照)の血中濃度が増加する。新規アンジオテンシンII受容体拮抗薬ロサルタンの代謝を約30%低下させることも知られている。シクロスポリンのAUCが50-60%まで増加。GFJとHMG-CoA還元酵素阻害薬アトルバスタチンの相互作用ではアトルバスタチンのAUCが40%増加するとされ、横紋筋融解症発現の原因となりうるとの症例報告もある。
オレンジジュース	β 受容体遮断薬のセリプロロールのAUCを約80%低下させる。臨床的意義は明らかでないものの、同薬服用患者にはオレンジジュースの飲用は勧められない。
ピリドキシン(ビタミンB ₆)	レボドパの代謝亢進または崩壊の増加。フェニトインまたはフェノバルビタールの血中濃度が約35-45%低下。
葉酸	フェニトインの血中濃度が低下。
アスコルビン酸(ビタミンC)	エチニルエストラジオールのAUCが60%までに増加。
炭火焼き肉・燻製食品(charcoal broiledまたはsmoked foods)	テオフィリンの排泄半減期が20%以上短縮。
高蛋白食	テオフィリンの排泄半減期の短縮およびプロプラノロールの経口クリアランス増加。
高炭水化物・低蛋白食	テオフィリンの代謝クリアランスが約20%低下。
高脂肪食	シクロスポリンのクリアランス増加。
魚油(fish oil)	ワルファリンの作用増強。
ビタミンKを含有する食品(納豆, クロレラ食品など)	ワルファリンの作用減弱。
喫煙	CYP1A2誘導によるテオフィリン, ジアゼパム, プロプラノロールなどの濃度低下。
セントジョーンズ・ワート(西洋オトギリソウ)	成分中のhyperforinが消化管粘膜および肝細胞中のCYP3A4を誘導するため、同分子種により代謝される多くの薬物のクリアランスが増加し、血中濃度が低下する。代表的な薬物は、カルバマゼピン, シクロスポリン, 抗HIV薬(インジナビル, ネルフィナビルなど), ジゴキシンなど多数にのぼる。

薬物の副作用と相互作用索引

*この索引は、A. 副作用症状、B. 相互作用薬物名に分かれています。

A. 副作用症状

6リン酸ブドウ糖脱水素酵素(G-6-PD)非依存溶血性貧血 1285
 ADH分泌不適合症候群 1279
 ADH分泌抑制症候群 1280
 APL分化症候群 1299
 B型肝炎 1292
 Churg-Strauss症候群 1289
 CK(CPK)上昇 1295
 DIC 1285
 G-6-PD依存溶血性貧血 1285
 LDLコレステロール上昇 1281
 Lyell症候群 1283
 PIE症候群 1288
 QRS延長症候群 1287
 QT延長症候群 1287
 S状結腸穿孔 1291
 Stevens-Johnson症候群 1282
 torsades de pointes 1287

ア行

悪性症候群 1298
 悪性新生物 1299
 悪夢 1299
 アジソン病様症候群 1279
 アナフィラキシー 1278
 アレルギー性紫斑病 1285
 意識障害 1299
 意識消失 1287
 意識低下傾向 1299
 一過性CPK上昇 1295
 一過性肝機能異常 1292
 一過性健忘症 1299
 咽頭喉頭感覚異常 1295
 インフルエンザ症候 1292
 インフルエンザ脳炎・脳症 1298
 インフルエンザ様症候群 1278
 インポテンス 1279
 うつ病様症候群・うつ傾向 1298
 うとうと状態 1299
 横紋筋融解症 1295
 悪心 1298
 悪心・嘔吐 1290

カ行

過強陣痛 1293
 喀痰増加 1289
 角膜混濁・沈着物 1293
 仮性脳腫瘍 1298
 顎下腺炎 1295
 過敏症 1300
 過敏性症候群 1284
 顆粒球減少症 1284
 眼球振盪 1294
 眼筋調節障害 1294,1298
 肝細胞性肝障害 1291
 間質性腎炎 1293
 間質性肺炎 1288
 眼周囲浮腫 1294
 肝腫大 1292
 肝静脈閉塞症 1292
 眼振 1294
 眼性天疱瘡 1294
 関節炎・関節痛 1296
 肝・胆道障害 1292
 眼底出血 1294
 眼内圧亢進 1294
 肝不全 1292
 顔面紅潮・発赤 1284
 記憶障害 1299
 期外収縮 1287
 気管支けいれん 1289
 気道閉塞 1288
 偽膜性大腸炎 1290
 逆流性食道炎 1292
 嗅覚脱失 1295
 球後視神経炎 1294
 吸収不良 1291
 急性呼吸促迫症候群 1289
 狭心症 1286
 強直性子宮収縮 1293
 胸膜炎 1289
 虚(乾性)咳 1288
 虚血性大腸炎 1292
 虚血性腸炎 1292
 巨大赤芽球(悪)性貧血 1285
 ギラン・バレー症候群 1297
 筋炎 1296
 筋障害症 1295
 筋痛 1295
 筋力低下 1295
 くるぶし浮腫 1284
 憩室炎 1292
 けいれん 1297
 血圧低下 1287

結核 1289
 血管炎症候群 1278
 血管神経性浮腫 1278
 血管迷走神経反応 1299
 血小板減少症 1284
 血小板増多症 1285
 血清脂質上昇 1281
 血清病 1278
 結石 1293
 結節性紅斑 1283
 血栓性静脈炎 1288
 血栓塞栓症 1287
 結腸壊死 1292
 下痢 1291
 幻覚状態 1299
 腱断裂 1296
 高アンモニア血症 1282
 高ガストリン血症 1279
 口渇 1290
 高カリウム血症 1280
 高カルシウム血症 1281
 口腔咽頭カンジダ症 1288
 口腔潰瘍 1290
 高血圧 1286
 高血糖 1281
 好酸球性肺炎 1289
 好酸球増多 1285
 高シアン血症 1282
 甲状腺機能亢進症 1279
 甲状腺機能低下症 1279
 抗精神病薬誘起性悪性症候群 1298
 光線過敏症 1283
 光線過敏性皮膚炎 1283
 口内炎 1290
 高尿酸血症 1281
 紅斑性狼瘡様症候群 1278
 高比重リポ蛋白コレステロール低下 1281
 高ビリルビン血症 1282
 後腹膜線維症 1293
 高プロラクチン血症 1279
 高ホモシステイン血症 1282
 高リポプロテイン血症 1282
 呼吸困難 1289
 呼吸抑制 1288
 骨壊死 1296
 骨粗鬆症 1296
 骨痛 1296
 骨軟化症 1296
 固定薬疹 1283
 コリン作動性クリーゼ 1299

サ行

再生不良性貧血 1284
 催眠 1299
 催眠障害 1299
 痤瘡 1283
 視覚異常 1294
 耳下腺炎 1295
 歯牙変色 1290
 色覚異常 1294
 色素沈着 1283
 色素性網膜炎 1294
 子宮頸管裂傷・破裂 1293
 自己免疫現象 1299
 自殺企図 1299
 視神経炎 1294
 視神経症 1294
 ジスルフィラム様症候群 1299
 持続勃起 1293
 失神 1299
 歯肉増殖 1290
 脂肪萎縮症 1282
 脂肪肝 1292
 視野・視力障害 1294
 射精障害 1279
 重症筋無力症様症候群 1296
 出血傾向 1285
 出血性大腸炎 1291
 出血性タンポナーデ 1287
 出血性膀胱炎様症候 1293
 腫瘍出血 1299
 腫瘍崩壊症候群 1282
 循環不全(ショック)症候群 1287
 消化管壊死 1292
 消化管症状 1300
 消化管穿孔 1292
 消化性潰瘍・出血 1290
 硝子体出血 1294
 小腸潰瘍 1290
 小腸穿孔 1290
 静脈炎 1287
 食道穿孔・潰瘍 1292
 徐脈 1287
 真菌感染症 1299
 心筋梗塞 1287
 心筋症 1286
 心血管系症状 1300
 シンコニズム 1298
 心室細動 1287
 腎集合管 ADH 拮抗症候群 1280
 振戦 1298
 心停止 1287
 心伝導障害 1288
 腎毒性 1292
 腎尿細管性アシドーシス 1282, 1293

心破裂 1287
 心不全 1286
 腎不全 1293
 心ブロック 1287
 心包炎 1286
 心房細動 1287
 心膜炎 1287
 じん麻疹 1283
 肺炎 1291
 錐体外路系障害 1296
 頭蓋内圧上昇 1298
 頭痛 1298
 精神神経障害 1299
 精神神経症状 1299
 性欲減退 1279
 赤芽球癆 1285
 セロトニン症候群 1299
 線維筋症 1296
 全身性の疼痛 1299
 喘息様症候 1288
 前庭器機能障害 1295
 喘鳴 1289
 せん妄錯乱状態 1299
 総コレステロール上昇 1281
 躁病 1299
 足指紫色壊死症候群 1284

タ行

体液貯留 1286
 代謝性アシドーシス 1281
 体重増加 1282
 苔癬性発疹 1283
 耐糖能低下 1281
 大動脈瘤 1287
 唾液腺腫 1290
 多形性紅斑 1282
 多幸症 1299
 脱髄疾患 1299
 脱毛 1283
 多尿 1293
 多嚢胞性卵巣症候群 1279
 多毛症 1283
 胆汁うっ滞性肝障害 1292
 胆石症 1292
 チアノーゼ 1287
 知覚異常 1298
 着色尿 1293
 注意力低下 1299
 中心性漿液性網脈絡膜症 1294
 中毒性表皮剝脱症 1283
 腸管穿孔・閉塞 1292
 腸管麻痺 1292
 腸閉塞類似症候群 1291
 低エストロゲン症候 1279
 低カリウム血症 1281
 低カルシウム血症 1281
 低血圧 1286

低血糖 1281
 低酸素症 1289
 低ナトリウム血症 1280
 低マグネシウム血症 1281
 点眼薬による全身性副作用 1294
 天疱瘡様皮疹 1284
 統合失調症様症候 1298
 疼痛症状 1300
 洞停止 1287
 突発性傾眠 1299
 トリグリセリド上昇 1281

ナ行

難聴 1295
 乳酸性アシドーシス 1282
 乳頭浮腫 1294
 乳房肥大 1279
 乳漏症 1279
 尿細管壊死 1292
 尿失禁 1293
 尿濃縮力低下 1293
 尿崩症 1280
 尿路閉塞 1293
 ネフローゼ症候群 1292
 脳血栓 1298
 脳梗塞 1298
 脳出血 1298
 脳卒中 1298
 脳浮腫 1298

ハ行

パーキンソン病様症候群 1296
 肺炎 1289
 敗血症 1285
 肺高血圧症 1287
 肺梗塞 1289
 肺浸潤 1288
 肺水腫 1289
 肺線維症 1288
 排尿障害 1293
 肺炎 1288
 白質脳症 1298
 剝脱性皮膚炎 1282
 白内障 1294
 播種性血管内凝固症候群 1285
 白血球増多 1285
 発熱 1278
 発熱反応 1300
 汎血球減少症 1284
 皮質盲 1294
 鼻充血 1288
 ビタミン B₁ 低下 1282
 ビタミン D 欠乏症 1282
 ビタミン K 欠乏症 1282
 ヒダントイン症候群 1296

非特異的大腸炎 1291
 皮膚潰瘍 1284
 皮膚筋炎 1296
 皮膚硬化症様症候 1284
 日和見感染 1299
 貧血 1285
 頻脈 1287
 ファンコニ症候群 1293
 副甲状腺機能亢進症 1279
 腹部膨満 1291
 不随意運動 1298
 不整脈 1286
 舞踏病様アテトーシス 1297
 プロスタグランジン合成阻害性体
 液貯留 1293
 ヘモグロビン減少 1285
 ヘモグロビン尿症 1293
 偏執症様症候 1298
 便秘 1291
 扁平苔癬型皮疹 1284
 弁膜症 1287
 勃起不全 1293
 ポルフィリン症 1281,1282

マ行

マグネシウム喪失性腎症 1293
 麻疹様発疹 1283
 末梢神経症状 1298
 末梢性ニューロパチー 1296
 麻痺性イレウス 1292
 まぶしがり症 1294
 マロリー・ワイス症候群 1292
 ミオパチー 1295
 味覚異常・障害 1290
 耳鳴り 1295,1298
 無顆粒球症 1284
 無菌性髄膜炎 1297
 無呼吸 1289
 メトヘモグロビン血症 1285
 網膜出血 1294
 網膜症 1294
 網膜静脈血栓症 1294
 網膜剝離 1294

ヤ行

溶血性尿毒症症候群 1293
 溶血性貧血 1285
 葉酸欠乏症 1282
 羊水過少症 1293

ラ行

落葉状天疱瘡様症状 1284
 良性脳圧亢進症 1298

緑内障 1294
 リンパ腫 1285
 リンパ腺腫大 1285
 類天疱瘡様皮疹 1284
 ループス様症候群 1278
 冷汗 1287
 レイノー現象 1287

B. 相互作用薬物名

5-アミノサリチル酸 1336
 α_2 受容体刺激薬 1325
 β 受容体遮断薬 1321,1322,1328
 BCG ワクチン 1327
 CYP 2 D 6 阻害薬 1340
 CYP 3 A 阻害薬 1341
 CYP 3 A 4 阻害作用を有する薬物
 1337
 CYP 3 A 4 阻害薬 1340
 CYP 3 A 4 誘導薬 1340
 G-CSF 製剤 1337
 H_1 受容体拮抗薬 1318
 H_2 受容体拮抗薬 1333
 HIV 感染症治療薬 1333
 HIV プロテアーゼ阻害薬 1321
 N-アセチルシステイン 1320

ア

アカルボース 1320
 アザチオプリン 1339
 アシクロビル 1334,1335,1339
 アジスロマイシン 1333,1335
 アスピリン
 1307,1309,1326-1328,1331
 アセチルコリン放出作用薬 1340
 アセトアミノフェン 1307
 アセトヘキサミド 1328
 アゼルニジピン 1322,1326,1333
 アゾール系抗真菌薬
 1321,1327,1337,1338
 アタザナビル
 1322,1332,1335,1337
 アデノシン 1319
 アテノロール 1321
 アトルバスタチン 1327,1342
 アドレナリン 1341
 アトロピン 1312,1340
 アトロピン系薬 1318,1323
 アバカビル 1334
 アプリンジン 1323
 アミオダロン
 1315,1323,1324,1331,1341
 アミカシン 1325
 アミトリプチリン 1313

アミノグリコシド系抗生物質
 1316,1317,1325,1332,1334,
 1337,1339,1342
 アミロリド 1338
 アムホテリシン B
 1309,1332,1334,1339,1342
 アムロジピン 1338
 アモキシシリン 1309
 アラセプリル 1326
 アルガトロバン 1330
 アルコール 1307,1311,1312,
 1315,1325,1334
 アルテプラゼ 1327
 アルプラゾラム 1311,1315,1335
 アルプロスタジル 1331
 アルベカシン 1325,1337
 アルミニウム含有薬
 1332,1333,1335,1339
 アレンドロン酸 1330
 アロプリノール 1315,1327,
 1329,1332,1336,1339
 アンジオテンシン II 受容体遮断
 薬 1324,1325
 アンジオテンシン変換酵素阻害薬
 1315,1324-1326,1328,1338,
 1339
 アンピシリン 1332
 アンプレナビル
 1324,1333,1335,1336,1341
 アンベノニウム 1318,1340

イ

イコサペント酸エチル
 1327,1330
 イソソルビド 1341
 イソニアジド
 1311,1315,1316,1329,1341
 イソフルラン 1326,1341
 イトラコナゾール 1307,1309,
 1310-1312,1318-1320,1322,
 1323,1326,1327,1330,1333,
 1335-1340
 イブプロフェン
 1307,1308,1321,1329
 イプリフラボン 1311,1313
 イホスファミド 1332,1336
 イマチニブ
 1309,1313,1326,1338
 イミプラミン 1313,1315,1318,
 1324,1325
 イリノテカン 1337
 インジナビル 1309,1311,1315,
 1322,1332,1333,1335,1336,
 1338
 飲酒 1336,1341
 インスリン 1328

インターフェロン
1327, 1334, 1339, 1340
インターフェロンアルファ 1336
インダパミド 1324
インドメタシン 1307-1310,
1321, 1324, 1325, 1326

ウ

ウロキナーゼ
1319, 1327, 1330, 1331

エ

エストラジオール 1339
エストロゲン
1313, 1317, 1321, 1328, 1330
エタクリン酸 1325, 1332
エタノール 1307, 1334
エチニルエストラジオール
1330, 1339
エトスクシミド 1316, 1342
エトポシド 1337
エナラプリル
1315, 1324-1326, 1328, 1340
エノキサシン 1307, 1327, 1333
エピルビシン 1337
エファビレンツ 1309, 1310, 1335
エフェドリン 1327
エフェドリン含有かぜ薬・鼻づま
り治療薬 1320
エリスロマイシン 1308-1312,
1315-1320, 1322, 1323, 1326,
1329, 1330, 1337, 1339, 1340
エルゴタミン 1308, 1333
エルゴタミン系薬 1308
エルゴメトリン 1308
エレクトリプタン 1308, 1309
塩化ナトリウム 1315
塩酸バルデナフィル水和物 1324
エンフルラン 1341

オ

オーラノフィン 1309
オキサプロジン 1315
オキシフェンブタゾン 1328
オザグレル 1319, 1327, 1331
オピオイド 1307, 1311, 1312
オフロキサシン 1333
オメプラゾール 1311, 1315,
1316, 1327, 1332, 1333, 1338
オランザピン 1313
オレアンドマイシン 1309, 1339
オンダンセトロン 1328

カ

カオリン-ペクチン 1320
陰イオン交換レジン 1339
ガチフロキサシン 1333
活性炭 1320
カテコールアミン 1320, 1341
カナマイシン 1316
カフェイン 1307, 1308, 1327
カプトプリル 1315, 1320, 1324-
1326, 1328, 1340
カベルゴリン 1317
カリウム保持性利尿薬
1325, 1326, 1338
カルシウム含有薬
1330, 1332, 1333
カルシウム拮抗薬
1321, 1327, 1328, 1337
カルバペネム系抗生物質 1315
カルバマゼピン 1308, 1310-
1316, 1322, 1329-1331, 1335,
1336, 1338, 1342
カルピプラミン 1318
カルベジロール 1320, 1321
カルペリチド 1320
カルボプラチン 1325, 1337
ガンシクロビル 1334, 1335, 1339
カンデサルタン 1325, 1326
漢方薬 1308, 1338

キ

キニジン 1313, 1314, 1316-1318,
1320, 1322-1324, 1328, 1331,
1333, 1337, 1340, 1342
キノロン系抗菌薬
1307, 1327, 1333
急性飲酒 1313
吸入麻酔薬 1326
強心配糖体 1319, 1320
筋弛緩薬 1317, 1332
金製剤 1309

ク

クアゼパム 1310
グアナベンズ 1325
グアンファシン 1325
クエチアピン 1312, 1316
クマリン系抗凝固薬 1330
クラリスロマイシン 1308-1310,
1313, 1316-1318, 1323, 1327,
1332, 1335, 1338, 1339, 1341
マクロライド系抗生物質 1339
グリクラジド 1329

グリセオフルビン 1331, 1342
グリベンクラミド 1328, 1329
グリメピリド 1329
グルテチミド 1331
グレープフルーツジュース
1309-1311, 1316, 1321-1323,
1326, 1330, 1335, 1337, 1339
クロキサシリン 1331
クロナゼパム 1316
クロニジン 1312, 1325
クロフィブラート 1329
クロミプラミン 1313, 1314
クロラムフェニコール
1315, 1329, 1332
クロルジアゼポキシド 1331
クロルゾキサゾン 1310
クロルフェニラミン 1318
クロルプロマジン 1312, 1313,
1315, 1317, 1318, 1321, 1324,
1325, 1327, 1328

ケ

経口避妊薬 1309-1311, 1313,
1318, 1321, 1327-1330, 1342
血管拡張薬 1321
ケトコナゾール 1329, 1331,
1335, 1336, 1341, 1342
ケトプロフェン 1307, 1333
ゲフィチニブ 1338
ゲンタマイシン 1316, 1325, 1337

コ

降圧薬 1321, 1326
抗血小板薬 1331
抗コリンエステラーゼ薬
1317, 1318, 1340
抗コリン薬
1311, 1312, 1317, 1318, 1323
甲状腺ホルモン薬 1330
甲状腺末 1328
抗パーキンソン病治療薬 1312
抗ヒスタミン系薬物
1312, 1318, 1325
抗不整脈薬 1324
酵母 1318
骨髄抑制作用を有する薬物 1309
コデイン 1341
コリン作動薬 1340
コルチコステロイド 1316, 1328
コレステミド 1307
コレステラミン 1307, 1309,
1320, 1330, 1331, 1339

サ

サキナビル 1310,1322,1333,
1335,1336,1341
ザフィルルカスト 1331
サフラジン
1308,1314,1320,1341
サリチル酸薬 1329
ザルシタビン 1334
サルファ剤 1331
三環系抗うつ薬 1313,1316,
1318,1320,1324,1325,1340

シ

ジアゼパム
1310,1311,1312,1337
ジギタリス薬 1319
シクロスポリン 1307,1320,
1322,1325-1327,1332,1334,
1336-1339
ジクロフェナク
1307,1309,1315,1325,1341
シクロプロパン 1341
シクロホスファミド
1317,1334,1336
ジゴキシン 1319,1320,1324
シスプラチン
1309,1325,1332,1336,1337
ジスルフィラム 1331,1341
ジソピラミド 1321,1323,1324
ジダノシン 1333-1335
ジドブジン 1334
ジヒドロエルゴタミン
1308,1333
ジヒドロピリジン系 Ca 拮抗薬
1321
ジピリダモール 1319,1327,1331
ジフェンヒドラミン 1318,1321
シプロフロキサシン
1311,1313,1327,1333,1339
シベンゾリン 1323
シメチジン 1309-1316,1318,
1321-1323,1327,1329,1331,
1333,1336,1339-1342
小柴胡湯 1340
硝酸薬 1321,1341
ジョサマイシン
1309,1316,1318,1339
シラザプリル 1324,1326
ジルチアゼム 1309,1310,1315,
1316,1318,1321-1324,1326,
1327,1330,1338,1339
シルデナフィル 1320,1326,1341
シルテプラゼ 1327
シロスタゾール 1327,1330,1331

シンバスタチン 1326,1333

ス

水酸化アルミニウム
1312,1320,1321,1330
水酸化マグネシウム 1320
睡眠・鎮静薬 1307,1311,1312
スキサメトニウム 1316,1317
スクラルファート
1320,1331,1333
スコポラミン 1317,1318,1340
ステロイドホルモン 1328
ストレプトマイシン 1316
スパルフロキサシン 1323,1324
スピロラクトン
1325,1326,1338
スペクチノマイシン 1317
スマトリプタン 1308
スリングク 1326
スルチアム 1315
スルピリド 1317
スルファサラジン 1336,1339
スルファジアジン 1334
スルファフェナゾール 1315
スルファメトキサゾール-トリメ
トプリム 1309,1315,1328,
1331,1332,1334,1339,1342
スルフィンピラゾン 1328,1331

セ

制酸薬 1312,1320,1321,1330,
1332,1333,1335,1339
西洋オトギリソウ 1335
セビメリン 1340
セファゾリン 1331
セファマンドール 1331
セファロスポリン系抗生物質
1331,1332
セファロチン 1325
セファロリジン 1325
セフォセリス 1331
セフォテタン 1331
セフォペラゾン 1331
セフチゾキシム 1331
セフメノキシム 1331
セフロキシム 1331
セボフルラン 1326
セレギリン
1308,1314,1317,1318
線維素溶解薬 1327,1330
全身麻酔薬 1341
セントジョーンズ・ワート
1320,1323,1335,1338,1339,
1342
セントジョーンズ・ワート含有食

品 1308,1338

ソ

ソタロール 1324
ゾテピン 1312
ゾニサミド 1315,1316
ゾピクロン 1310
ソマトロピン 1328,1329
そら豆 1318
ゾルピデム 1309,1310
ゾルミトリプタン 1308,1314

タ

タクロリムス 1325,1332,1339
ダナゾール 1316,1339
ダナパロイド 1330,1331
ダブソン 1342

チ

チアジド 1328
チアジド系利尿薬 1315,1317,
1319,1324,1325,1328,1329
チアプリド 1317
チーズ 1318
チオテパ 1317
チオリダジン 1307,1311,1312,
1314,1323,1324
チカルシリン 1331
チクロピジン 1315,1316,1319,
1327,1330,1331
チザニジン 1317
チモロール 1340
中枢神経抑制薬 1315
中枢抑制薬 1312
チラミン含有飲食物 1318
鎮痛薬 1307

テ

低カリウム血症を生ずる薬物
1317
テイコプラニン 1332
テオフィリン
1310,1315,1316,1319,1327
デキサメタゾン 1307,1308,
1310,1329,1330,1332,1335,
1338,1339,1342
デシプラミン 1313
鉄剤 1317,1325,1333,1339
テトラサイクリン系抗生物質
1317,1332
テノホビル 1334,1335